

を玉の湯山、院号を金剛院、寺号を信常寺、坊号を玉林房とつけたら良いでしょう、と厚く礼をのべて立ち去りました。

玉の湯は、伊達青葉あおばの湯と共に浜通りの名湯として、相馬藩主一族代々會遊の地として栄え、鹿ヶ峯の断崖には当時の廃坑が静かにねむり、里の人は代々「男鹿山に金が出る」と云いつたえて来ました。

諏訪大明神は享保十二年（一七二七）に金剛院別当昌鏡等の努力によって現在地に移されたと伝えられています。

### 〈第二十一話〉

## 切れる斧

むかし。

夫沢に大変正直しょうじきで働き者のお百姓ひやくしやうさんがすんでいました。

ところが働いても働いてもなかなか裕福よふくしくなりません。とうとう家屋いえは傾き、柱は朽くちはて